

令和4年3月29日

福知山市議会議長 高橋 正樹 様

予算審査委員会委員長 芦田 眞弘

委員会審査報告書

本委員会に付託された議案について、審査の結果、次のとおり決定したので、会議規則第80条の規定により報告します。

記

1 委員会付託議案

【令和4年度予算】

- ・議第100号 令和4年度福知山市一般会計予算
- ・議第101号 令和4年度福知山市国民健康保険事業特別会計予算
- ・議第102号 令和4年度福知山市国民健康保険診療所費特別会計予算
- ・議第103号 令和4年度福知山市と畜場費特別会計予算
- ・議第104号 令和4年度福知山市宅地造成事業特別会計予算
- ・議第105号 令和4年度福知山市休日急患診療所費特別会計予算
- ・議第106号 令和4年度福知山市公設地方卸売市場事業特別会計予算
- ・議第107号 令和4年度福知山市農業集落排水施設事業特別会計予算
- ・議第108号 令和4年度福知山都市計画事業石原土地区画整理事業特別会計予算
- ・議第109号 令和4年度福知山市介護保険事業特別会計予算
- ・議第110号 令和4年度福知山市下夜久野地区財産区管理会特別会計予算
- ・議第111号 令和4年度福知山市後期高齢者医療事業特別会計予算
- ・議第112号 令和4年度福知山市水道事業会計予算
- ・議第113号 令和4年度福知山市下水道事業会計予算
- ・議第114号 令和4年度福知山市病院事業会計予算
- ・議第158号 令和4年度福知山市一般会計補正予算（第1号）

【令和3年度補正予算】

- ・議第143号 令和3年度福知山市一般会計補正予算（第12号）

- ・議第144号 令和3年度福知山市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）
- ・議第145号 令和3年度福知山市休日急患診療所費特別会計補正予算（第1号）
- ・議第146号 令和3年度福知山市農業集落排水施設事業特別会計補正予算（第1号）
- ・議第147号 令和3年度福知山市介護保険事業特別会計補正予算（第4号）
- ・議第148号 令和3年度福知山市病院事業会計予算（第3号）
- ・議第157号 令和3年度福知山市一般会計補正予算（第13号）

2 審査の概要

3月9日、10日、11日、14日に、令和3年度補正予算及び令和4年度予算について、部等を組み合わせた4つの審査グループごとに所属別質疑を行いました。また、17日には、(仮称)福知山鉄道館ポップランド建設事業に関する2議案の質疑を行いました。

さらに22日には総括質疑、25日には自由討議、討論、採決を行いました。

はじめに、**令和3年度補正予算**の審査について報告します。

まず、**審査グループ①**では、議第143号のふくちやまサポーター拡大事業について、「ふるさと納税寄附金額が増額になった理由」を問う質疑があり、「プロモーション活動による認知度向上の取り組みが功を奏したことや、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う巣ごもり消費の影響もあると考えている。また、8月からふるさと納税サイトを2つ増やしたことや返礼品を69品目増やしたことも考えられる」との答弁がありました。

次に、繰越明許費の三和荘整備事業について、「設計業務の工期が確保できなかった理由と今後のスケジュールへの影響」を問う質疑があり、「有利な財源である過疎対策債を活用できる計画とするための京都府との協議に時間を要したもので、設計業務の完成は令和4年9月30日を予定している。その後、発注業務を行い、完成については当初計画どおりの令和5年度末を予定している」との答弁がありました。

次に、**審査グループ②**では、議第143号の自宅療養者等配食サービス事業について、「ピーク時の状況と問題なく配食ができたか」を問う質疑があり、「3エリアを2社で対応しており、多い時で1日あたり280人程度の実績があった。時間をいただくことはあったが、申し込みをいただいたご家庭にはお断りすることなく配食できた」との答弁がありました。

次に、公立保育所運営事業の4,900万円の減額について、「保育士不足により不用額が生じたことに伴う補正であるが、保育所運営への影響はなかったのか」を問う質疑があり、「年度当初より保育士不足が生じていたが、運営や保育サービスの提供に問題はなかった」との答弁がありました。

次に、議第147号の介護保険事業の介護予防・生活支援サービス事業について、「事業費の増額の要因である要支援認定者数」を問う質疑があり、「当初予算編成時は1,268

人、今回の補正時は1, 363人と95人の増加となっている」との答弁がありました。

次に、**審査グループ③**では、議第143号の福知山市月次支援事業について、「予算額の約91.2%にあたる2億3,677万4,000円が減額となった理由」を問う質疑があり、「対象期間を9月から12月の4カ月に設定していたが、国が要請する感染拡大防止措置期間との関連で2カ月に縮小されたことに加え、11月から国において創設された事業復活支援金で対応できることとなったことなどにより、低い執行率となったものである」との答弁がありました。

次に、繰越明許費の消防団施設整備事業について、「4回の入札不調の原因」を問う質疑があり、「技術者の配置ができないことが大きな理由である」との答弁がありました。

次に、**審査グループ④**では、議第148号の病院事業における非常用自家発電設備等の整備について、「実施設計を次年度以降に延期することに伴う減額補正の詳細な理由」を問う質疑があり、「令和元年7月に災害拠点病院の基準が変更となり、敷地内に非常用発電機の設置と燃料の備蓄が求められることとなった。平地である職員駐車場に整備すると50台以上の面積が必要であり、代替えの駐車場用地の確保だけでなく、病院敷地内の他施設の老朽化や浸水対策などの課題も考慮し、一体的な整備をすることで、余分な投資を避けるよう議論しているところである」との答弁がありました。

各審査グループとも、さまざまな事情があり繰越が発生することは理解するものの、詳細な説明を求める質疑および資料の正確な記載を求める意見がありました。

次に、**政策提言反映質疑**について報告します。

3月11日に、令和2年度決算審査を踏まえた政策提言に対する、令和4年度予算への反映状況を確認するため、該当する審査グループ③において質疑を行いました。

提言項目「福知山市の農業を守る支援施策の強化」について、「より市が主体的に取り組みを進めるとあるが、具体的な内容」を問う質疑があり、「京力農場プランの実質化や農地集約など、従前より地区推進協議会の活動の中でも行っていたが、委託という形式にすることで、市が進めるということを明確にしたものである。そのため、予算配分においては、従来の地区推進協議会活動補助金は半減し、新たに委託料として設けたものである」との答弁がありました。また、「新規に創設された農地利用効率化等支援交付金の内容」を問う質疑があり、「人・農地プランに位置付けられた経営体等が生産の効率化に取り組む場合等に必要な農業用機械・施設で、事業費が50万円以上のものが対象となり、補助率は10分の3である」との答弁がありました。

なお、「シビックプライドの醸成」「関係人口・交流人口の拡大」に向けての提言項目に対する質疑はありませんでした。

次に、**令和4年度予算**の審査について報告します。

まず、**所属別質疑の審査グループ①**では、議第100号の提案型公共サービス民営化制度導入事業について、「事業の目的と予算規模」を問う質疑があり、「市が実施する事業で課題を抱えているもの、民間から提案を受け改善したい事業について、市民団体等から提案いただいたアイデアを生かしていくものである。令和4年度は提案を受けたものを担当課と調整を行い、審査をるところまでを予定している。実際に提案いただく事業によって、その後の事業規模が大きく変わってくることから、現時点において予算規模は決まっていない」との答弁がありました。

次に、空家安全対策事業について、「予算額が1,130万円から209万1,000円に減少している理由」を問う質疑があり、「令和3年度においては、3件の略式代執行を行ったためである」との答弁がありました。

次に、新文化ホール計画策定事業について、「検討委員会の人選をどのように考えているか」を問う質疑があり、「10名程度を考えており、建築・施設・防災・事業企画・環境問題の5部門の学識経験者に加え、市内の文化団体、中心市街地団体及び市民公募の方等で組織していきたい」との答弁がありました。

次に、インターネットモニタリング事業について、「今後のスケジュールと、本市独自のシステム開発とは何か」を問う質疑があり、「初年度である令和4年度については、まずは手法を調査・研究することから始める。福知山公立大学に委託していくことにより、本市独自のシステムを開発していくものである」との答弁がありました。

次に、「市民税が増額となった要因」を問う質疑があり、「個人市民税については、新型コロナウイルス感染症の影響が不透明ではあるが、令和2年と令和3年の12月時点の有効求人倍率が0.47ポイント上がっていること、完全失業率についても、令和3年平均が2.8%で前年平均と同数値に留まっていること、さらに本市納税義務者や総所得金額は過去5年間の推移から増加傾向にあることから増額算定した。法人市民税については、令和3年度の予算算定において、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して対前年比43.88%の減少を見込んだが、影響を受けた業績は限定的であり、令和3年度の歳入実績は大きな落ち込みが見られなかった。また、内閣府の月例経済報告においても回復基調の記載があることも踏まえ、増額算定した」との答弁がありました。

次に、**審査グループ②**では、議第100号の生活保護扶助事業について、「先ほどの補正予算において、令和3年度当初予算17億2,019万6000円から15億9,448万3,000円に減額としたが、令和4年度当初予算では16億1,447万4,000円となっている。これらの経過を踏まえ、積算根拠」を問う質疑があり、「令和3年4月から保護廃止人数が保護開始人数を上回り減少が続いていたが、秋以降は増加に転じる兆候が見受けられる。令和4年度は、生活保護世帯の人員の年齢構成や直近の申請、相談内容を考慮し、増額を見込んだ」との答弁がありました。

次に、新生児聴覚スクリーニング検査費助成事業について、「助成内容」を問う質疑があ

り、「検査費用の一部を助成するものである。京都府より金額が提示されており、4,020円と1,500円の2種類がある。金額の高い検査の場合、市内の病院では、約5,000円から7,000円の費用負担が必要で、そのうち4,020円を公費負担するものである」との答弁がありました。

次に、保育士確保対策事業について、「保育士定着支援事業の補助対象」を問う質疑があり、「新規採用者だけでなく、採用される前1年間、市内の他の保育所等で保育士として勤務されていない方も対象となる。また、市外の保育所等で勤務されている方が本市の保育所等に勤務した場合も対象であるが、いずれも常勤で6時間以上の勤務が条件である」との答弁がありました。

次に、スマートフォン普及事業について、「使い方講座の開催に要する委託料625万3,000円の委託先と計画」を問う質疑があり、「市内でスマートフォンを販売する各ショップに委託する計画で、1回あたり10名規模で3時間の講座を60回開催する想定で予算計上している」との答弁がありました。

次に、指定ごみ袋作製事業について、「バイオプラスチック25%配合の燃やすごみ袋を新たに導入することに伴う値上げはあるのか」を問う質疑があり、「指定ごみ袋処理手数料の改定は行わないため、販売価格の変更はない」との答弁がありました。

次に、自主防災組織育成補助事業について、「至近の設立状況と今後の目標」を問う質疑があり、「令和3年度は5組織の設立があり、令和4年2月末で278組織、85.3%の設置率となっている。今後の目標として、令和6年度末までに100%の設置を目指している」との答弁がありました。

次に、議第101号の国民健康保険事業の退職被保険者等国民健康保険料について、「滞納繰越分のみ歳入計上されている理由や収納率が低い要因」を問う質疑があり、「退職医療者制度はすでに平成26年度末に廃止されている。また、収納が困難なものが残ってきているが、今後も支払っていただけるよう努力していく」との答弁がありました。

次に、議第109号の介護保険事業のその他事業（介護サービス相談員活動事業ほか）について、「前年度からの増額理由」を問う質疑があり、「コロナ禍に伴う介護サービス事業所の面会制限により、休止となっている活動を再開するため、相談員にPCR検査を実施する費用を計上している」との答弁がありました。

次に、**審査グループ③**では、議第100号のふくちやま応援プレミアムポイント事業について、「委託料3,400万円の内訳」を問う質疑があり、「システム関係経費に約2,200万円、事務局運営経費に約1,200万円を予定している」との答弁がありました。また、「紙媒体ではなく、デジタルツールを活用する手法を選択した理由と、スマートフォンを持たない方への対応」を問う質疑があり、「今後のキャッシュレス社会や、デジタルツールの様々な生活場面での利活用を踏まえたものである。スマートフォン未使用者の対応についても検討していく」との答弁がありました。

次に、「食」を通じた観光促進事業について、「期待する効果」を問う質疑があり、「ANAグループへの委託により商品開発や販路支援を進め、『食』のイベントを開催することで、観光誘客に繋げるものである」との答弁がありました。

次に、予算額150万円で新規創設された市単独農業基盤整備事業について、「事業内容の詳細」を問う質疑があり、「土地改良施設で生じた突発事故等に、迅速に復旧を行う団体を支援するもので、1地区50万円程度で3地区を計画している」との答弁がありました。

次に、循環型森林整備モデル事業について、「モデル地域として、夜久野地域を選定した理由と委託先」を問う質疑があり、「人工林比率が高く、林業に熱心な地域であることから選定をした。委託先は、森林整備については、伐るだけでなく植える必要もあることから、山を施業できる業者を選定していく。森林ビジョン作成については、プロポーザルにて選定していく」との答弁がありました。

次に、緊急安全対策整備事業について、「5,000万円の予算が計上されているが、令和4年度の計画」を問う質疑があり、「自治会要望に対する工事として200件で3,700万円、中央分離帯の植栽撤去として350メートルで525万円、街路樹の伐採・伐根、植樹柵の撤去、舗装として200箇所775万円の計画をしている」との答弁がありました。

次に、有償運送事業について、「拡充の内容」を問う質疑があり、「大江まちづくり住民協議会が取り組んでいる『鬼タク』が国定公園の中を走行していることもあり、シティプロモーションの一環として、市でEV車を購入し、事業者に貸し付けるための車両購入費を計上している」との答弁がありました。

次に、中・北部地域共同消防指令センター整備事業について、「令和6年4月からの共同運用に向け、令和4年度予算として他消防本部からの負担金8億4,710万4,000円を含め、10億3,692万8,000円が計上されているが、2年間で必要となる本市の負担金はいくらか」を問う質疑があり、「システム整備として、約2億7,590万円、改築工事費として、約1,674万円である」との答弁がありました。

次に、議第103号のと畜場費について、「令和3年3月31日で休止した食肉センターの汚水処理施設の最終清掃等として、90万円が計上されているが、将来の展望」を問う質疑があり、「食肉センターは、と畜場法に基づく施設として市街化調整区域に設置されているが、都市計画法上の制限が大きく、と畜場以外の用途では活用できない。今後、都市計画法上の制限を解除したうえで、市街化調整区域内で設置可能な施設がないか、京都府や地元と協議した上で検討を進めていきたい」との答弁がありました。

次に、**審査グループ④**では、議第100号の水洗化促進補助事業について、「合併処理浄化槽設置補助を令和4年度9基見込んでいるが、これにより水洗化率は何%になるのか」を問う質疑があり、「令和2年度末の69.0%から69.27%となる見込みである」との答弁がありました。」

次に、スクールライフ応援事業について、「一人あたり年間12,000円の定額支給の方法」を問う質疑があり、「就学援助家庭を対象とした支給であるため、新たな申請は不要である。本制度の認定を受けることによる収入増加で、生活保護の対象から外れることもあり得ることから支給の辞退も受け付ける制度としている」との答弁がありました。

次に、はばたけ世界へ中学生短期留学事業について、「令和4年度の留学事業実施に向けての準備事業として、令和3年度に現地視察を計画されていたが、実施したのか」を問う質疑があり、「新型コロナウイルスの感染状況が収まらないこともあり、リモートで現地と繋ぐ形式であった」との答弁がありました。続いて、「長崎方面を選定した理由」を問う質疑があり、「広い視野と国際感覚を持つために、国際交流を通じて自らの成長と新たなステップに挑戦するという目的に合致した場所であるという判断から選定をした」との答弁がありました。また、「15名の選定方法と自己負担」を問う質疑があり、「4月中旬より、募集を開始する予定であり、1次選考として、応募用紙にしっかりと動機を記入していただく。2次選考は、作文と面接を行う。自己負担については、保険料1,000円と現地での食事代5,000円を予定している」との答弁がありました。

次に、図書館電子書籍貸出サービス事業について、「令和4年1月20日の事業開始から短期間ではあるが、現在の利用状況」を問う質疑があり、「サービス開始から2月末時点でのログイン数は67,745件で、1日平均1,693件となっている。令和2年度の図書館中央館の来館者の1日平均は485人であり、約3.5倍の利用がある」との答弁がありました。

次に、議第112号の水道事業及び議第113号の下水道事業について、「令和3年度当初と比べ、水道では給水戸数が50戸増加、下水道では処理戸数が300戸増加している要因」を問う質疑があり、「どちらも過去の実績等を勘案したものであるが、下水道については下豊西部地区農業集落排水施設の公共下水道への統合戸数が含まれている」との答弁がありました。

次に、議第114号の病院事業について、「大江病院の病床数を68床から52床に削減することに至った考え」を問う質疑があり、「大江町の人口は、平成27年は約4,700人であったが毎年100人程度減少しており、現在は約4,070人となっている。それに比例して、入院患者数は平成28年では66.8人であったが、令和3年10月時点においては51.6人となっている。そのうち大江地域の方は3割である。また、一般病床で運用した場合、一人あたりの単価は20,000円程度であるが、地域包括ケア病床で運用すると22,800円程度となる。一般病床と比較して約2,000万円程度増額があるのではないかと見込んでいる」との答弁がありました。また、「地域包括ケア病床の必要性」を問う質疑があり、「機能としては大きく3点あると考える。1つ目は在宅復帰の支援を行う機能、2つ目は後方支援機能、3つ目は地域医療を担う機能である」との答弁がありました。

次に、議第157号及び議第158号の（仮称）福知山鉄道館ポッポランド建設事業の審査について報告します。

はじめに、「建設予定地が当初のプランから、現在の親水公園に移転となった理由」を問う質疑があり、「地域住民の皆様の住環境の悪化への懸念や既存の駐車場が狭くなるなどの課題により変更した」との答弁がありました。

次に、「令和6年度の入館者数を6万人としている根拠」を問う質疑があり、「従来の誘客を基礎とした推計ではなく、施設のスペックを基に推計をしている」との答弁がありました。

次に、「特定財源である地方創生拠点整備交付金の目的」を問う質疑があり、「地域の観光振興等の基盤となる施設整備等により、まちの活性化や関係人口の拡大に寄与することを目的にしている。」との答弁がありました。

次に、「開館後の運営方法」を問う質疑があり、「収支シミュレーション上、直営の形態で試算したが、今後検討していく」との答弁がありました。

次に、「施設建設にあたって、パブリックコメントの実施など、幅広く市民の意見を聞いたか」を問う質疑があり、「福知山鉄道館ポッポランドのあり方検討委員会とその提言書、寄附をいただいた後の関係団体のヒアリング、負担付き寄附の条件などを考慮して、パブリックコメントは実施しない判断をした」との答弁がありました。

次に、「市民への本施設の有益性」を問う質疑があり、「本市には、鉄道とともに発展してきた歴史があり、これを伝承する意義がある。また、入館者が市内を回遊などされることにより、地域経済にも寄与すると考えている」との答弁がありました。

次に、「体験コンテンツの維持管理の更新費用の財源」を問う質疑があり、「基金の残額の活用や、クラウドファンディングや協賛金を募ることなどを考えている。」との答弁がありました。

次に、**総括質疑**について報告します。

「令和4年度予算編成において、留意した点」を問う質疑があり、「まちづくり構想 福知山によるまちづくりの推進、ウイズコロナ・アフターコロナ時代を見据えた施策展開、持続可能な財政構造の堅持、行財政マネジメントサイクルの機能発揮の4項目を掲げるとともに、①部長マネジメントによる事業の最適化、②対話とパートナーシップの徹底、③PR戦略の全庁的推進、④行政の役割の適正化の4つに留意して予算編成を行った」との答弁がありました。

次に、**一般会計歳入関係**では、「市税の今後の推移」を問う質疑があり、「法人市民税については、新型コロナウイルス感染症による景気の不透明感が残るが、雇用情勢の改善や企業業績の緩やかな回復基調を踏まえ、約3億1,700万円増を見込んだ。個人市民税については、給与所得が全総所得金額の86%を占めており、給与所得が税収に大きく影

響することから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和3年度の実績見込みを考慮し、1億9,800万円増を見込んだ。ただし、市税収入については、社会情勢や経済情勢に大きく左右され、今後の税制改正によっても変動が生じることから市税全体を見通すことは困難であるが、人口減少や少子高齢化により徐々に減少傾向で推移すると想定している」との答弁がありました。

次に、**一般会計歳出関係**では、「持続可能な財政構造に向けた歳出の改善の取り組み」を問う質疑があり、「例えば、歳出等の改善においては、業務効率化の推進としてA I－O C RやR P Aの導入等によりシステムへの単純入力時間を削減する取り組みや、令和3年度より実施しているつつじが丘・向野団地建替え事業ではP F I方式の採用によりトータルコストの削減や、脱炭素の取り組みとして、公共施設の照明のL E D化による電気料金の削減に努めている。また、以前より実施している地方債の繰上償還については、令和4年度においては令和3年度の普通交付税の追加交付分を活用して、当初予算に計上することで、さらに将来の公債費負担を抑制していくこととした。投資的経費については、必要な投資を厳選し、可能な限り国府補助金を確保しつつ、確保が困難なものについては交付税措置のある有利な地方債を活用することで、後年度の負担軽減に努めた」との答弁がありました。

次に、「アクティブシティ推進事業の進め方」を問う質疑があり、「市民の身体活動を盛んにすることで、誰もが心身ともに健やかで豊かな生活を送ることが出来るまちづくり『健康都市の実現』に市民、団体、行政が一緒になって取り組むものである。日常の生活をより充実したものに転換していくことで、まち全体を豊かで元気なものにし、市民の幸せ度、健康度を高めていこうとするもので、日常生活に関わる幅広い分野の要素を事業に取り入れながら、全市的に取り組んでいきたい」との答弁がありました。

次に、「令和4年度予算における認知症対策の取り組み」を問う質疑があり、「主な予算として、認知症施策推進事業1,684万円では、認知症の早期診断、早期対応を目指して、専門職が重点的に支援を行う認知症初期集中チームの設置や、日常的な見守りや行方不明者を早期発見するためのふくちやまS O Sネットワークの実施など、認知症の進行予防や在宅生活などの支援に取り組む。介護予防普及啓発事業545万5,000円では、認知症を含むさまざまな疾患から要介護状態になることを予防するために、サロン活動など地域の自主的な集いの場の立ち上げや運営支援、地域公民館等市内9カ所の交流拠点の設置により、健康づくりや認知症予防の取り組みを行う。高齢者の保健事業と介護予防の一体化事業250万8,000円では、高齢者のフレイルが進み、要介護状態に陥ることを予防するため、75歳以上の高齢者で健康診査等の受診をしていない健康状態不明者を対象に、アンケート調査や状況把握のために訪問し、必要な人には医療機関の受診や、介護予防事業へ繋げていく取り組みを行う」との答弁がありました。

次に、「旧3町の拠点施設について、それぞれ違う手法で管理運営されようとしているが、

その意図、目的」を問う質疑があり、「平成30年度、福知山市指定管理者制度第三者評価委員会からのあり方検討にかかる調査報告において、施設設置当時と大きく社会情勢、市民ニーズが変化している中で、地域特性を考慮しながら民間のノウハウやアイデアを活かした資産の有効活用、サービス提供を図るために、民間事業者への貸し付けや売却を検討すべきと提言されたことを受け、その後の活用を検討してきたものである。施設の性格的な違いなどを踏まえながら、それぞれの施設が、存続していく最適な手法を検討・決定したもので、この結果を踏まえ、今回の予算をお願いしたところである」との答弁がありました。

次に、「林業振興費について、ハード、ソフトの森林インフラ整備を事業の中でどう取り組むのか」を問う質疑があり、「林道や作業道等の路網整備については、安心・安全の森づくり事業において、林業を振興するために実施している。土場の確保については、林業事業体において、それぞれの現場状況に応じて確保していただきたいと考えている。また、森林情報や地図情報の整備については、本市の森林整備や林業施策に活用するため、森林経営管理事業において、航空レーザー測量により取得したデータを整備し、森林所有者に開示しているほか、事業体へ提供し森林整備に活用することとしている」との答弁がありました。

次に、「本市施設の電力調達の方角性」を問う質疑があり、「世界的な気候変動対策や脱炭素社会、SDGsの動きに呼応し、エネルギーの地産地消による地域経済の活性化、地域雇用の創出等を目的として、市内の地域新電力であるたんたんエナジー株式会社の再エネ100の電力への切り替えを推進している。令和2年度の本庁舎等を皮切りに、72の高圧電力施設のうち、41施設を切り替え済みである。切り替えが済んでいないものには、上下水道部のような他市と共同で調達しているものや、環境パークのように24時間稼働し、負荷率が高く新電力への切り替えにより電気料金の増加が見込まれるものなどがあり、各施設の状況を踏まえながら、導入が可能な施設については、順次切り替えていきたい」との答弁がありました。

次に、「長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、発生している福祉現場の現状を踏まえた令和4年度予算における対応」を問う質疑があり、「令和4年度予算としては、人材確保・定着策において、組替え拡充を行うものである。具体的には、UIターン家賃補助制度を組替え、市外のみならず市内の潜在介護人材なども対象とした介護職員定着支援金410万円を計上している。また、外国人受け入れの事業者向けの家賃助成である外国人介護人材家賃補助270万円、市外および外国からの職員雇用に対し支援する介護職員雇用奨励金150万円も継続して行い、総額1,766万円の予算を計上している。併せて、地域の支え合いの取り組みにおいて、令和3年度に2地域で訪問型サービスBの補助を活用しながら、住民同士の支え合いの取り組みを推進いただいている。このような取り組みを、他の地域でも進めていただけるよう、令和4年度についても384万円の予算計

上を行っている」との答弁がありました。

また、「移住・定住施策」「本市で開催される全国大会への対応」「ワクチン接種事業の状況」「スポーツ交流人口増と各種団体の連携による増収」「地域貢献型エネルギー推進事業」「環境に配慮したまちづくり」「コロナ禍を踏まえた、生活困窮者への支援、子どもの貧困対策」「住みやすく安全・安心なまちづくり」などの質疑もありました。

なお、議第102号、議第104号から議第108号、議第110号から議第111号、及び議第144号から議第146号についての質疑はありませんでした。

次に、委員から提案された2つのテーマに基づき、**自由討議**を行いました。

自由討議のテーマは次のとおりでした。

- ① 大型プロジェクトに対する議会の関わり方（福知山新文化ホール建設など）
- ② 当初予算提案と条例改正の時期について

自由討議を終結し、討論に入る段階で委員より、議第157号及び議第158号について、継続審査を求める動議が出されましたが、継続審査を求める動議に対して、採決を行ったところ、賛成少数により、継続審査は否決となりました。

次に討論を行いました。

反対

・議第100号、議第111号、議第114号、議第157号、議第158号の5議案について反対する。はじめに、議第100号の一般会計については、同和対策特別措置法失効後も継続されている同和行政、地方自治法に抵触する自治会長の事務委嘱のあり方、ふくふく医療事業の据え置き、新文化ホール計画予定案の厚生会館跡地は浸水区域であることから反対する。次に、議第111号後期高齢者医療事業については、受けられる医療が差別される仕組みとなっているため反対する。次に、議第114号病院事業については、大江分院の再編において、コロナ禍の中で医療の充実が求められているときに、16床削減することは、医療の充実を損なうものであることや、4月1日からの再編は拙速であることから反対する。次に、議第157号、議第158号の（仮称）福知山鉄道館ポッポランド建設事業については、建設場所が景観を損ね、浸水する地域である、寄附を大きく上回る予算、集客の見通しや、運営方法が未決定であることから反対する。

・議第157号、議第158号の2議案について反対する。（仮称）福知山鉄道館ポッポランド建設事業については、負担付き寄附を理由に市民の意見に耳を貸さない姿勢、市民の同意を得ない施設を建設する理由が不明確、運営コストの算定基準に明確な根拠がない、市民の意見を聞いていないという点で、福知山市景観条例及び都市計画法に抵触する可能性があること、事業費総額を減額したかのように提示していることから反対する。

・議第157号、議第158号の2議案について反対する。(仮称)福知山鉄道館ポップランド建設事業については、十分な議論が尽くされていないことや、福知山市自治基本条例に反するほど、市民参画、市民協働がまったくされていないことから反対する。

賛成

・議第100号から議第114号まで、議第143号から議第148号まで、及び議第157号から議第158号までの23議案、すべての議案について賛成する。変革と挑戦が必要なこの時代、認識と危機感を念頭に、令和4年度予算案は編成されており、福知山市をしなやかで強靱なまちに進化させ、福知山市の未来のため、明るいまちづくりのため、熟慮を重ねられた予算であると考え。市民生活を守る様々な事業を成功させ、「夢のある、魅力あるまちづくり、ふるさとづくり」に知恵と力をだしていかなければならないことから、全議案に賛成する。

3 審査結果

- ・議第100号 賛成多数で原案可決
- ・議第101号 全員賛成で原案可決
- ・議第102号 全員賛成で原案可決
- ・議第103号 全員賛成で原案可決
- ・議第104号 全員賛成で原案可決
- ・議第105号 全員賛成で原案可決
- ・議第106号 全員賛成で原案可決
- ・議第107号 全員賛成で原案可決
- ・議第108号 全員賛成で原案可決
- ・議第109号 全員賛成で原案可決
- ・議第110号 全員賛成で原案可決
- ・議第111号 賛成多数で原案可決
- ・議第112号 全員賛成で原案可決
- ・議第113号 全員賛成で原案可決
- ・議第114号 賛成多数で原案可決
- ・議第143号 全員賛成で原案可決
- ・議第144号 全員賛成で原案可決
- ・議第145号 全員賛成で原案可決
- ・議第146号 全員賛成で原案可決

- ・議第147号 全員賛成で原案可決
- ・議第148号 全員賛成で原案可決
- ・議第157号 賛成多数で原案可決
- ・議第158号 賛成多数で原案可決